

地球縦回り一周の旅

21世紀 冒険プロジェクト



企画書 (2004年)

地球縦回り事務局

代表 大場 満郎

〒110-0005

東京都台東区上野 1-11-5 時計会館 1階

Tel : 03-5807-8313

Fax : 03-5807-8301

E-mail : mail@global-edventure.net

Web : <http://www.global-edventure.net>

はじめに

私は、20年間かけて二つの大きな夢を成し遂げてきました。単独徒歩による、北極及び南極の横断です。この夢を達成するために、数々の冒険を行い、肉体と精神を鍛えてきました。今から振り返れば、日々の生活は、全てこれらの夢を叶える為だけにあったと言えます。これも、多くの方々の心暖まるご支援の賜だと、心より感謝しております。

さて、現在は次なる夢に向けて始動しております。過去の冒険を通して、私が今までに体験したこと、見たこと、感じたことを、多くの方々に伝えたいと思い、「地球縦回り一周の旅」を計画いたしました。

実際に自分の足で地球を旅して感じることは、環境が相当に痛めつけられ、自然の浄化・作用が損なわれているということです。南極棚氷の流出、ヒマラヤの山々やグリーンランドの氷河の後退など、地球の温暖化が原因であるように見受けられます。また、オゾン層の破壊で、高緯度の動植物の生態にも影響が出ており、さらに、皮膚がんの恐れも指摘されるなど、我々人類にとって、環境破壊は大きな問題として表面化してきました。このような世界的な問題を、ひとつの地域、ひとつの国だけで、考え、行動したとしても、解決は困難でしょう。今こそ、21世紀の人間の生き方を模索し、新しい文化の創造、文明の扉を開いてゆく、チャレンジ精神が必要です。世界がひとつになり、人間社会のあり方を今見つめなおし、自然と調和し、共生してゆく生き方が求められる時代だと思えます。

旅の具体的な方法としては、隊員が現地から様々なテーマでレポートします。自然、民族、文化、健康といったテーマに沿った情報を、通信機器を用いてホームページにアップします。このホームページ上で、全国の小学校、中学校の子供たちが、さまざまな地球の現状について幅広い視点から学ぶことができるわけです。質問は、専門家にアクセスすると答えてもらえるシステムを構築します。また、生徒たちと隊員との相互通信も行い、現場からの迫力ある生の情報を提供いたします。これらの学習を通して、お互いに共通した認識を深めることが可能となり、地球環境問題に対し理解を持ってほしいと考えます。皆様のご指導とご支援をどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

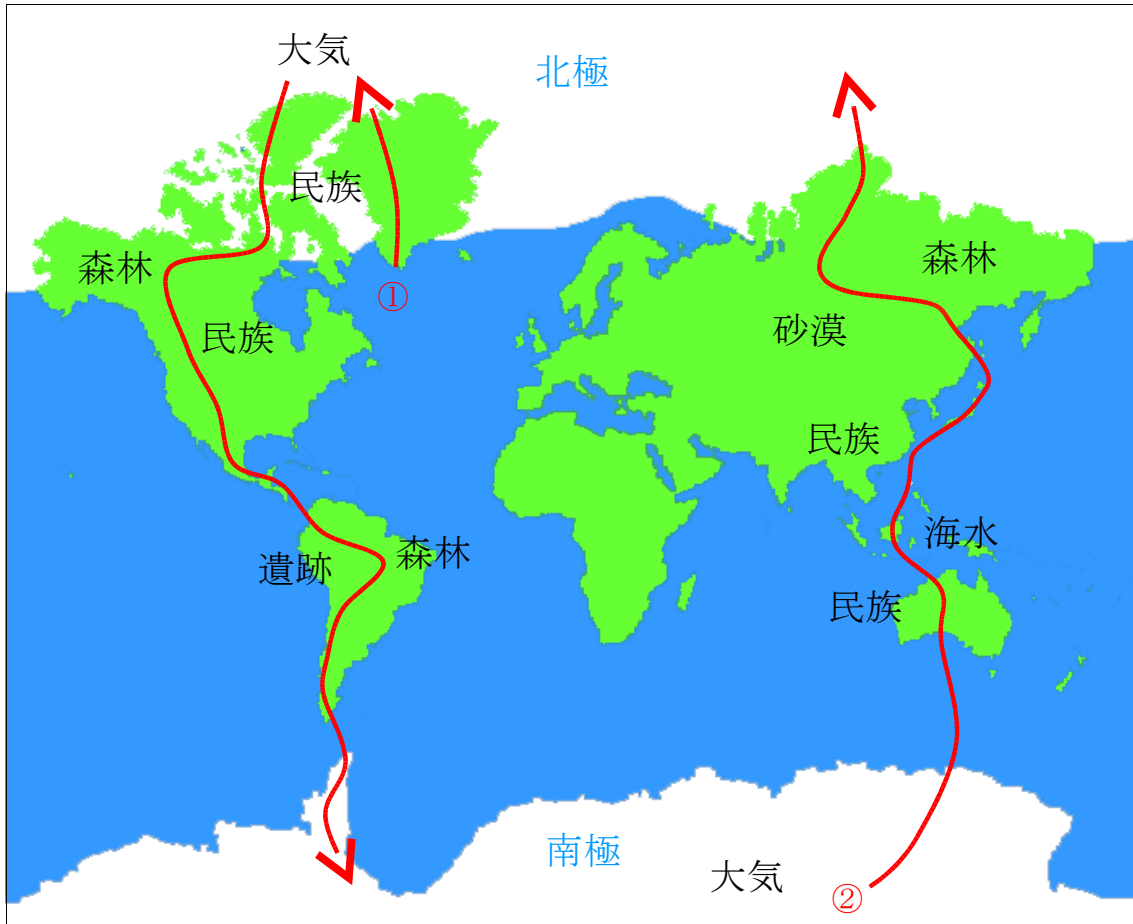


地球縦回り事務局 代表
大場 満郎

プロジェクト概要

- 名称 地球縦回り一周の旅 ～ 21世紀 冒険プロジェクト
- 期間 2004年4月～2010年4月（予定）
- 目的 「地球の今」を体験・学習・伝達することで、地球環境に対する共通認識を深め、「未来の人と地球のありかた」を共に考え、新しい地球社会を創ってゆこうとする原動力となること。
- 方法 隊員たちが、自然・民族・文化・健康といったテーマをもとに、「地球を縦に回る冒険」を行います。そして、訪れる現地での調査・体験を、プロジェクト用ホームページやリアルタイム通信機器を通じて伝えてゆきます。全国の小・中学校の子供たちは、それをもとに地球の現状について学び、自ら考える力を育ててゆきます。
 - 詳しくは、地球縦回りネットワーク（最終ページ）をご覧ください。
- 隊員 各大陸数名（例：冒険2名、ベースキャンプ1名）
- 旅路 地球の北と南の地軸を線で結ぶルート（北極点→南極点→北極点）。
 - 詳しくは、地球縦回りルート（次ページ）をご覧ください。
- 移動 陸路は動力を使わず、徒歩・スキーセーリング・自転車・らくだなどを使用。海路は可能な限りカヌー・カヤックを使用。海流が激しいところは渡航船を使用。

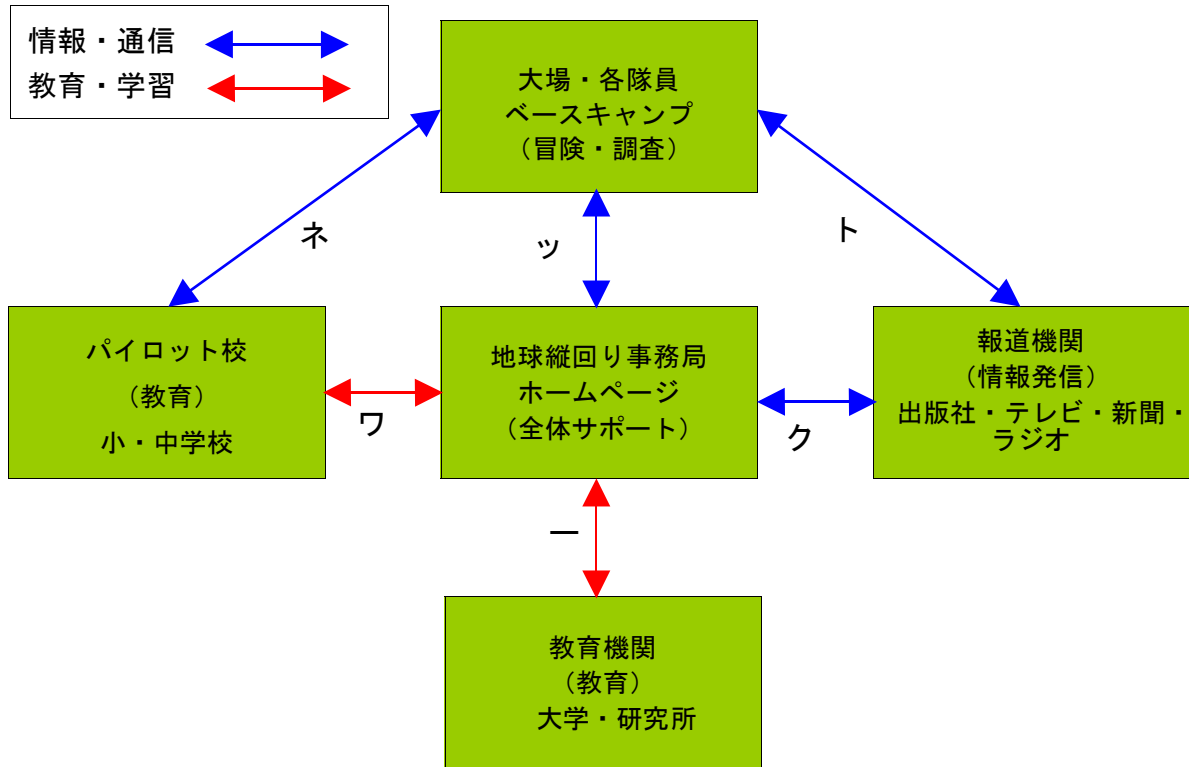
地球縦回りルート



- ① グリーンランド → 北極 → 北アメリカ → 南アメリカ → 南極
- ② 南極 → オーストラリア → 東南アジア諸島 → 日本 → シベリア → 北極

- 隊員達は、各自が設定したテーマ（上図のテーマは一例として記載）にもとづいて冒険・調査を行い、インターネット・衛星電話などを通して現地の様子を伝えます。
- 南極から北極へのルートは、その時の国の政情によって柔軟に決定していこうと考えています。

地球縦回りネットワーク



ネ イリジウム衛星携帯電話を用いて、現地の隊員とパイロット校の生徒たちが週に一度リアルタイムの質疑応答を行う。

ツ 隊員がホームページに現地の体験談・調査レポートを書き込む。

ト 各種メディアがベースキャンプから隊員の様子や現地の情報を発信する。

ワ パイロット校の生徒たちがホームページにアクセスし、隊員たちの体験談・調査レポートをもとに環境問題、異文化などを学習する。パイロット校の総合的な学習の時間に活用する。

一 寄せられた生徒たちの質問に対して、教育・研究機関の識者・専門家がホームページ上で意見・解説を行う。

ク 各種メディアと連携して、地球縦回りプロジェクトの広報・出版等を行う。